



平成29年度
気象防災アドバイザー育成研修
【実践コース】

災害コミュニケーション
「適切な話し方・適正な資料の作り方」



2018年(平成30年)年3月11日(日)

防災局長 山田 治之

新潟港湾事務所 工務課長 長尾 聡

An aerial photograph showing a town in Japan that has been almost completely destroyed. The ground is covered in a sea of debris, including twisted metal, wood, and household items. Only a few buildings remain standing, many of which are severely damaged. In the foreground, a large, multi-story building with a flat roof and a metal railing is visible, appearing to be a remnant of a larger structure. The background shows a hazy, mountainous landscape under a grey, overcast sky.

2011年（平成23年）3月11日（金曜日）

14時46分18秒

私たちは あの日を忘れない
そして 私たちに何が出来るか 問い続けたい

はじめに

今日は、下記のような項目について皆さんといっしょに考えます。

I 認識の共有

1. 災害を知る
2. 弱点を知る
3. 武器を知る

II 災害コミュニケーションについて考える

1. 防災や危機管理に関するコミュニケーション
2. コミュニケーション活動の目的
3. コミュニケーションの対象と手法

III 災害応急対策時のメディア対応

1. メディアへの対応
 - ① 対策本部の組織的対応
 - ② 報道対応の場所
2. 報道発表のポイント
 - ① 対策本部会議
 - ② メディアへの伝え方

IV 演習

1. 演習の目標
2. 演習の流れ
3. 演習の条件

演習① 市町村長への的確な状況報告と助言

演習② 避難勧告の市民（区長）への電話による伝達

演習③ メディアに対する情報発信

V 本日の振り返り

1. 気づきの共有
2. 今後の気象情報のあり方を考えるための情報提供
 - ① 地域協働型の地域気象情報
 - ② ソーシャル・センサーの活用

I 認識の共有

年度末の土日を11週間かけるというタフな研修で、
これまで「防災基礎」「防災気象情報」を学ばれた皆さんには
釈迦に説法ですが、
災害全般についてのこれまでと現在、
そして今後の展望について認識を共有します。

1. 災害を知る① 日常を破壊する事態

私たちの日常がいかにリスクと隣り合わせなのか、あらためて確認しましょう。

(1) 自然災害

- ① 地質災害(地震・津波・火山噴火…)
- ② 気象災害(洪水・土砂災害・豪雪・竜巻・高潮・猛暑・冷夏…)
- ③ 生物災害(新型インフルエンザ・エボラ出血熱・鳥インフルエンザ…)

(2) 事故災害・人為的災害

- ① 大規模事故災害(大規模火災・産業事故災害・交通機関事故災害…)
- ② 原子力災害
- ③ 人為的災害(環境汚染・欠陥製品・インフラ災害…)

(3) 武力攻撃・テロ

- ① 武力攻撃・テロ
- ② サイバーテロ

(4) 予想される巨大災害

- ① 首都直下地震
- ② 南海トラフ地震

※ 複合災害

掛け算型の例: 東日本大震災＝地震・津波×原子力

足し算型の例: 天明の大飢饉＝噴火→冷害→凶作→疫病→治安悪化

1. 災害を知る② 地球環境の凶暴化

災害と隣り合わせの現在ですが、次の世代、つまり私たちの子どもたちの世代は、
今よりはるかに厳しい環境下で生きることになります。冷静に現実を把握しましょう。

(1)洪水・土砂災害・台風災害

- ① 地球温暖化の影響はあきらか
- ② 異常気象が通常になりつつある

【土砂災害の発生件数】		【50mm/h以上の降水量観測件数】	
1982年～92年：全国で	830件・年平均75.4	年平均	186.6
1993年～01年：	927件・ // 103.0	//	199.0
2002年～11年：	1,150件・ // 115.0	//	225.6

(2)地震災害・火山災害

- ① 3. 11後、日本列島は歴史的な活動期に入った(と言われている)

【M5以上の地震発生件数】	
1973年～2010年(38年間)：全国で	2,459件・年平均64.7
2011年～2014年：(4年間)：	// 1,048件・ // 262.0

- ② 首都直下、南海トラフ地震は時間の問題
- ③ 御嶽・西ノ島新島・桜島・・・貞観年間の再来か？

2. 弱点を知る

私たち一人ひとりや社会全体としての災害に対する対応力は、実は急激に低下していて、今後ますます脆弱になっていくと考えられます。

この現状を把握することが、今後の取組のヒントになるはずです。

(1) 成熟社会での防災力の低下

① 高齢社会の現実

65歳以下率：1950年95%→14年75%→60年40%

② 就業構造の変化・過疎化・都市化

③ 地域の在り様の変化（コミュニティの弱体化、互助力の低下）

④ 自己責任の意識不足（公助依存意識の増加）

⑤ 人類としての対応力低下（察知能力・防護能力）

(2) 高度化・複雑化した社会での被害の拡大

① 直接的な被害よりも連鎖的被害が拡大

② 技術の進歩により表面化する危機や危険の増加（未知の災害）

③ 低成長下で増加するリスク

3. 武器を知る

私たちは、災害にどのように挑んできたのでしょうか。

これまでの取組とこれからの潮流を考えます。

(1)武器の勝利(予防中心の防災)

- ① 工学的武器(消化器、堤防、耐震化など)
- ② 理学的武器(観測、予報・予知など)
- ③ 社会的武器(法や制度、体制など)

(2)予防防災の限界(被害抑止から被害軽減＝減災の考え)

- ① 想定以上の脅威・・・工学的武器の限界
- ② 想定外の脅威・・・理学的武器の限界
- ③ 防災の限界を超える巨大災害の出現

(3)レジリエンス(予防力＋回復力)・・・世界の潮流

- ① 予防力の強靱化・・・頑丈に、多重に、多様に
- ② 回復力の構築・・・応援力、受援力、代替力

(4)「新たなステージ」に対応した防災・減災対策

- ① 防災気象情報の改善
- ② 観測・予報技術の高度化

Ⅱ 災害コミュニケーションについて考える

今回の研修のお題に「災害コミュニケーション」を頂きましたが、

そもそも「災害コミュニケーション」って何でしょう。

自治体が直面する災害コミュニケーションの趣旨や手法を確認し、

実際に疑似体験していただく演習に備えます。

1. 防災や危機管理に関するコミュニケーション

防災や危機管理の分野で「〇〇コミュニケーション」という言葉はよく使われます。
ここでは今日皆さんと考える「災害コミュニケーション」の趣旨を確認します。

【リスク・コミュニケーション】

社会を取り巻くリスクに関する正確な情報を、行政、専門家、企業、市民などのステークホルダーである関係主体間で共有し、相互に意思疎通を図ることをいう。合意形成のひとつ。

【クライシス・コミュニケーション】

非常事態の発生によって組織が危機的状況に直面した場合に、その被害を最小限に抑えるために行う、情報開示を基本としたコミュニケーション活動。

【災害コミュニケーション】

災害が発生する前、または災害が発生したときに、命を守る行動をとるべきひとに、的確な行動を促すコミュニケーション活動。



【課 題】

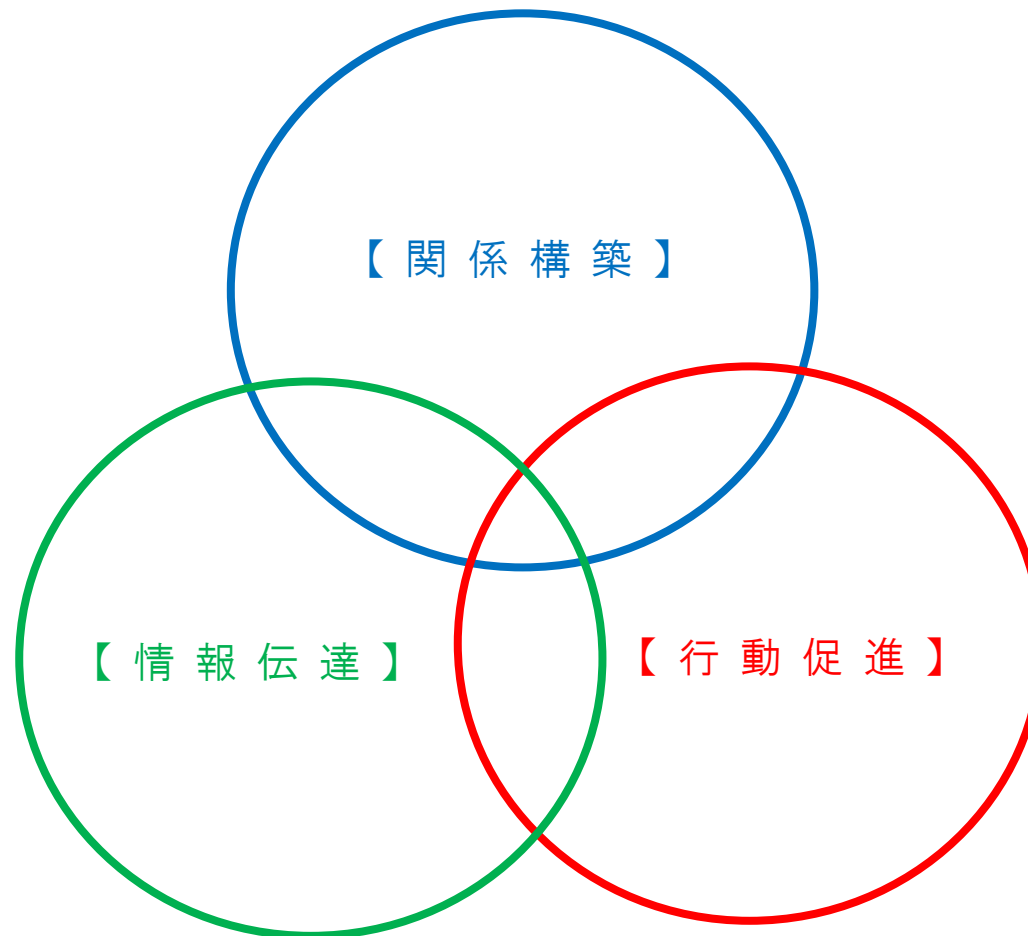
本当は、
このコミュニケーション活動が
もたらす課題についても
議論しなくてははいけません。

2. コミュニケーション活動の目的

「世の中のもめ事は8割方コミュニケーション不足が原因」と言いますが、何が不足したのでしょうか。また、もめないためのコミュニケーション能力とは何でしょう。

コミュニケーションを目的別に考えると、現場で求められる能力がイメージできます。

【コミュニケーションの目的】



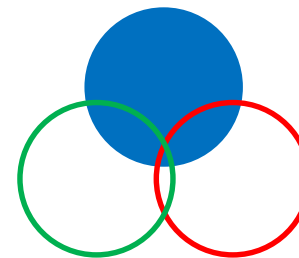
3. コミュニケーションの対象と手法

防災や危機管理で効果的なコミュニケーションを図るには、相手の側から考えた的確な手法やタイミングを選択していく必要があります。

今日は、メディアを介したコミュニケーションの重要性について考えます。

平常時

	自主媒体			パブリシティ (報道)	その他
	紙媒体	イベント	メール・HP		
関係者	○	○	○		
不特定者	○	○	○	○	
被災者					

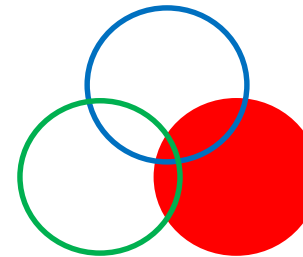


【課 題】

市町村や関係機関と
顔の見える関係をつくること。
市民、メディアと信頼関係をつくること。

警戒・応急対策時

	自主媒体			パブリシティ (報道)	その他
	紙媒体	イベント	メール・HP		
関係者	○		○		
不特定者			○	○	
被災者			○	○	○

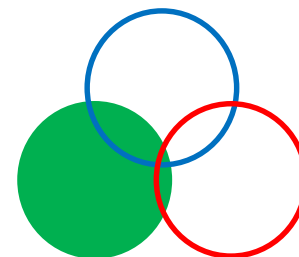


【課 題】

「現象先取り防災行動誘発型」の
情報をいかに市民に発信し、
いかにメディアに発信するか。

復旧・復興時

	自主媒体			パブリシティ (報道)	その他
	紙媒体	イベント	メール・HP		
関係者	○		○		
不特定者				○	
被災者	○	○	○	○	○



【課 題】

被災した皆さんに
タイムリーに、もれなく、
必要な情報を届けること。

Ⅲ 災害応急対応時のメディア対応

“災害にふたつとして同じ顔はない”と言われます。

当然、そのつど適時・的確に対応していかなければなりません。

しかし事前に意識し、あるいは備えておけることもあります。

ここでは、災害時のメディア対応の基本的なお作法について

これまでの経験から考えます。

1. メディアへの対応 ①対策本部の組織的対応

大雨災害での新潟県の体制を参考に、事態の進展と広報活動の体制について考えます。

災害予防期

気象情報・水防情報等の伝達

災害発生直前

気象警報・水防警報・土砂災害警戒情報等の伝達

避難準備・高齢者等避難開始
避難勧告、避難指示(緊急)

災害発生直後

災害発生情報の伝達

知事の緊急宣言

被害状況速報の発表

災害応急対応期

被害状況・対応状況の発表

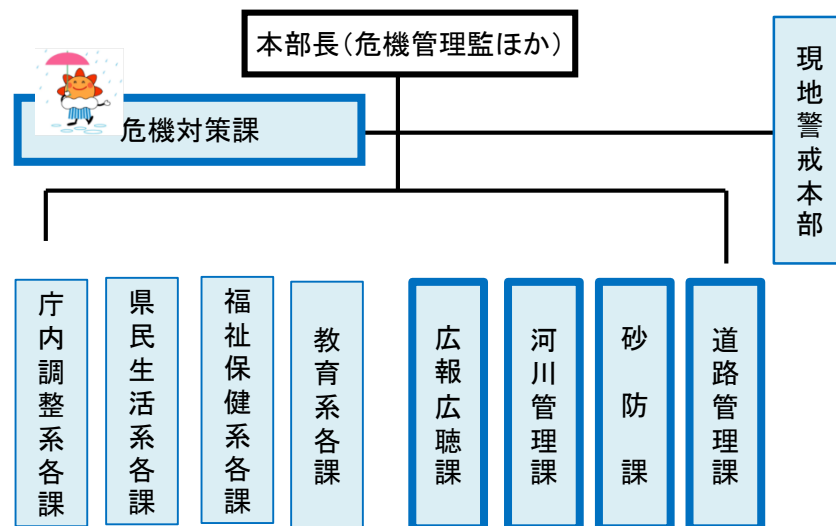
【各部署での全力対応】

現状認識と進展見込みを共有しつつ、各部署がカウンターパートと24時間体制で連携を密に対応する。

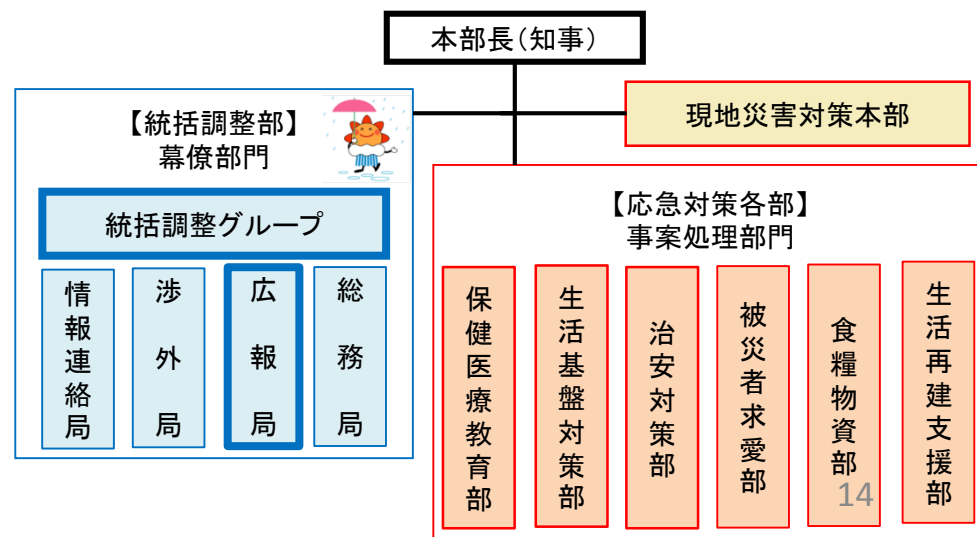
【組織の意思決定で対応】

現状認識と二次災害も含む進展見込みを共有しつつ、組織としての意思決定により迅速・適格に対応する。

【警戒本部】(大雨に関する事例)



【災害対策本部】



1. メディアへの対応 ②報道対応の場所

新潟県の配置を参考に、広報に関わる場所について考えます。

【現地からの会議参加】

TV会議システムを使って、市長や関係機関のトップにも参加してもらう。

防災局執務室

【裏本部会議室】

公開できない情報共有や意思決定を行うための裏会議室があると便利。

【本部は立入禁止】

黙ってると入ってくる。入室禁止にするには定時・定所での情報提供が有効。

【記者のたまり場】

多少離れていてもいいから記者のたまり場があった方がよい。

【記者会見会場】

記者会見や記者レクの会場はなるべく近くに確保した方がよい。

【ぶらさがり場所】

ぶらさがり取材の場所はできれば決めておいた方がいい。

災害対策本部事務局 (平時は、大・小会議室)

災害対策本部会議室



【張り出しボード】

本部廊下と記者たまり場にメディア用の張り出しボードを置く。

【会議・報道資料】

会議資料などは配るのではなく、カフェテリア式で。欠品は厳禁。

【記者名の把握】

本部会議を主催する記者の社名と氏名を名簿に記入してもらう。

【報道は大人数】

TVキー局 $5 \times 3 \text{人} = 15$
新聞 $(5 + \alpha) \times 2 = 20$
合計60人程度見込む。



1. メディアへの対応 ②報道対応の場所

新潟県の配置を参考に、広報に関わる場所について考えます。



【専門家の場所】

県知事の隣に状況分析のキーパーソン（新潟地方気象台の船崎台長）。



【表情・語り口】

視聴者や記者に緊張感と信頼感を与える真摯な表情や音着いた語り口。

【ドレスコード】

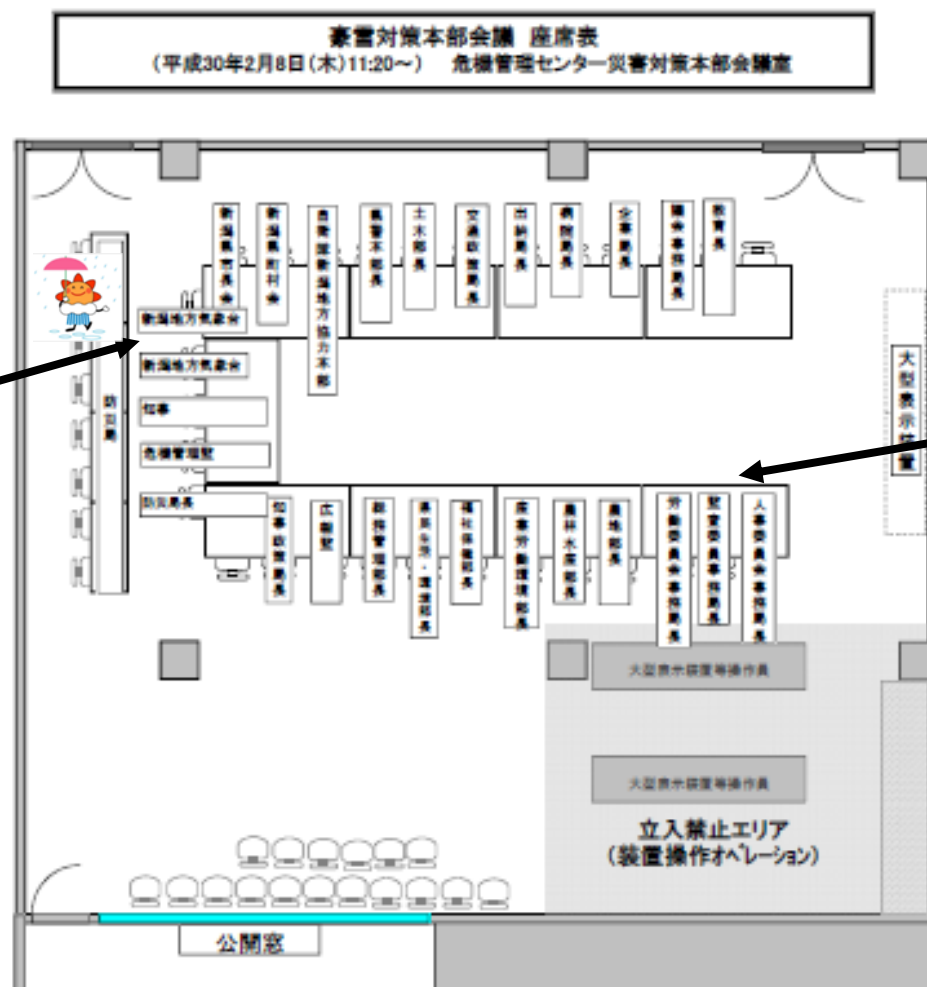
警戒状態は平服。対策本部以上は上下防災服。関係機関にも依頼する。

【会議・発表の記録】

発言の音は記録する。誤りの訂正や報道の誤認を説明するときに確認する

【報道モニタリング】

現場情報はメディアの方が持っている。ホットポイントをおさえる。



【手元資料は要注意】

報道は机上の書類を撮影する。非公開資料を持っているときは要注意。



2. 報道発表のポイント ① 対策本部会議(会議リリース)

新潟県の豪雪対策本部を例に、報道リリースの作り方について考えます。

【記者クラブとの調整】

- ①時間ルール
- ②場所ルール
- ③捌きルール など

【定刻化・定位置化】

対策本部会議や記者発表は、敢えて定刻化した方がよい。

【会議や発表の時間】

TVの編集時間、新聞の締め切り時間など、報道してもらう配慮が必要

【報道リリースの前に】

報道より重要なステークホルダーやキーパーソンに発表することを連絡。

【公開・非公開を明示】

全公開・冒頭公開・非公開など。非公開なら理由の説明を。第1回が重要。

新潟県報道資料



平成30年2月8日

豪雪対策本部（防災局危機対策課）

知事を本部長とする豪雪対策本部を設置し、会議を開催します。

県では、降り続く雪により積雪量が増加し、本日9時53分に長岡市から県災害救助条例適用の協議があったため、同時刻に知事を本部長とする豪雪対策本部を設置しました。

つきましては、会議を以下のとおり開催します。

1. 日 時 平成30年2月8日（木） 11時20分～
2. 場 所 県庁西回廊2階危機管理センター災害対策本部会議室
3. その他 会議は公開で行います。

【報道リリース時間】

新潟県は平時は1時間前。
緊急時でも30分は必要。
深夜は直接連絡する。

【リリースのタイトル】

簡潔に主語述語で言い切る。「・・・について」はダメ。発信者も明記。

【会議の位置づけ】

何のための会議なのか、
誰がトップの会議なのか、
を明記する。

【問い合わせ先】

確実に連絡がとれ、しっかり説明できる対応者。
場合により時間限定など

■本件についてのお問い合わせ先
防災局 危機対策課 大崎
TEL 025-282-1632（内線 6432）

2. 報道発表のポイント ① 対策本部会議(会議資料)

新潟県の豪雪対策本部を例に、会議の流れや資料の作り方について考えます。

【トップへの説明】

現況と対応状況、進展見込みを会議前に説明する。きれいな書類よりホワイトボードの写しや地図におとした資料の方がよい。

【トップへの報告】

気象や被害状況、今後の見込、市町村や関係機関の状況などを踏まえトップに報告し判断を仰ぐ。必要に応じて裏会議開催。

【本部長挨拶・指示】

項目を箇条書で手元に持つ
①被災者見舞
②状況と進展見込み
③指示
④県民への呼び掛け

【状況説明】

会議資料は更新されているので、様式を決めた方がよい。特記事項も明記。地図資料や現地写真などが入ればなおよい。

前日～ 新潟地方気象台、関係機関と連絡調整
早朝～ 市町村に状況確認
9:00 状況集約
9:10 「裏会議」の後にトップに報告
9:53 市から救助条例適用協議
これを受け、知事トップの対策会議設置
10:30 報道リリース
10:50 知事に状況説明
11:20 豪雪災害対策本部会議

- 1 本部長あいさつ
- 2 今後の気象見込み(新潟地方気象台)
- 3 被害状況・進展見込み
- 4 降積雪に対する対応状況
- 5 本部長指示

ぶらさがり取材

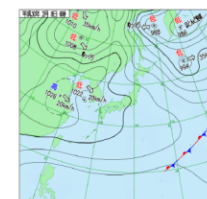
会議後、報道に資料提供

【気象状況】

気象台からその時点での最新情報を説明していただく。本部員から質問も出るので対応して頂いている。

本日の天気図と長岡市の注意報について

●2月8日6時 地上天気図



●注意報発表状況(長岡市)

平成30年 2月 8日 10時30分 新潟地方気象台発表

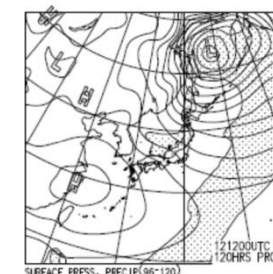
新潟県の気象警報・注意報
下欄、中欄では、6日夕方から大雪や強降雪への経過に注意してください。降雪開始では、6日深夜から大雪や強降雪に注意してください。下欄、中欄、上欄では、9日までの大雪や強降雪に注意してください。

長岡市【大雪、雪、なげり、強降雪注意報】

発表時刻	発表内容	発表時刻	発表内容
2月8日 10時30分	大雪、雪、なげり、強降雪注意報	2月8日 10時30分	大雪、雪、なげり、強降雪注意報
2月8日 10時30分	大雪、雪、なげり、強降雪注意報	2月8日 10時30分	大雪、雪、なげり、強降雪注意報
2月8日 10時30分	大雪、雪、なげり、強降雪注意報	2月8日 10時30分	大雪、雪、なげり、強降雪注意報

【大雪、雪、なげり、強降雪注意報】
大雪、雪、なげり、強降雪注意報は、大雪、雪、なげり、強降雪の恐れがある地域を対象に発表されます。大雪、雪、なげり、強降雪注意報は、大雪、雪、なげり、強降雪の恐れがある地域を対象に発表されます。

(来週)12日21時の地上予想天気図



- 来週11日から冬の気圧配置が再び強まり、県内は風雪が強まる
- 12日をピークに大雪となるおそれがある

新潟県報道資料



平成30年 2月 8日 15時 0分
新潟県防災危機対策課

今冬(平成29年度)の雪による被害状況について (速報第29報)

今冬の雪による被害状況についてお知らせします。
なお、市町村から報告があったものを取りまとめているますが、今後内容の変更が生じることがありますので御承知をお願いします。

○人的・建物被害の状況 (2月 8日 14時 30分 現在)

	人的被害(人)				住家被害(棟)				非住家被害 (事業用以上)(棟)	救助 法等 適用
	計	死者	行方 不明者	軽傷者	計	全壊	半壊	一部 破損		
県全体	168	12	66	90	9		7	1	1	4
市町村別										
新潟市	9	2		7						

【ぶらさがり対応】

- ①現状認識
- ②指示事項
- ③県民への呼び掛け 等
こまかなデータの質問は担当が補足する。

2. 報道発表のポイント ② メディアへの伝え方

災害気象情報は伝えられてこそ意味があります。では、メディアにどう伝えたらいいでしょうか。

【ワンソース・マルチユース】

情報発信は、会議資料・メディアリリース・ホームページ・メール・防災行政無線・広報車など多岐にわたります。

最初にしっかり作って、統一的に発信することが重要です。

また、作業負担も減ります。

【視覚化・地図化・レベル化】

文字情報だけではなく、視覚化することが重要です。地図化やレベル表示などで情報を瞬時に共有し、アプリで迅速・適格な情報提供が図られます。

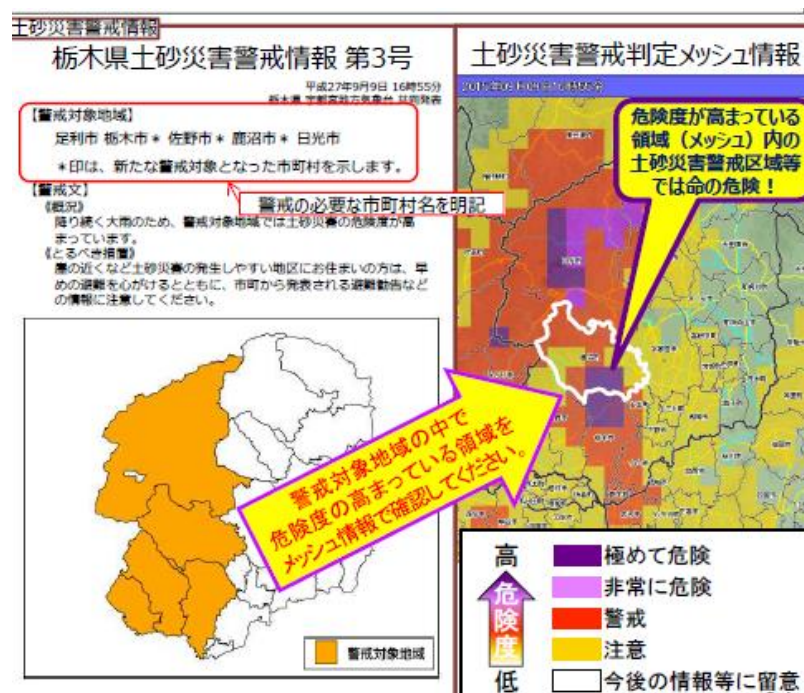
しかし、視覚情報だけでは行動誘発には弱いことを認識しなければいけません。

【言語情報で行動誘発】

（誤解を恐れず申し上げれば）視覚情報は、客観的、無機的な情報です。

視覚情報をもたらす情報に加え、信頼できる人や組織が語る言語情報が、市民の現象先取型の行動を誘発します。

また、そういう目的意識をもって、メディアに情報提供すべきです。



メディア報道

情報提供型報道

実況中継型報道

無責任型報道

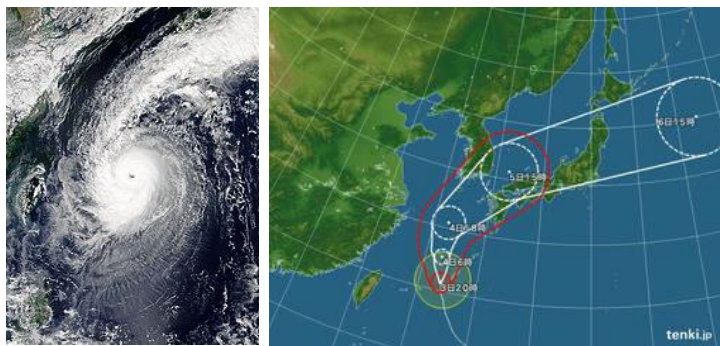
現象先取防災行動誘発型報道



2015年9月 関東・東北豪雨

2. 報道発表のポイント ② メディアへの伝え方

平成28年(2016年)18号台風の例を参考に報道の状況を知り、私たちの責務を考えましょう。



【平成28年台風18号】

台風18号は沖縄地方の久米島に接近したあと東シナ海を北上し、釜山から日本海に抜けて温帯低気圧に変わりました。台風の中心は久米島の西側を通過して直撃を免れたため、中心気圧905hPaの台風による前例のない暴風は避けられた。

逆に、台風から遠く離れた沖縄本島では、暴風、波浪、大雨、高潮の4つの特別警報が出たにもかかわらず台風の影響は小さく、特別警報の内容と実態が乖離しているとの批判も出るなど、またも特別警報の問題が指摘されることとなった。

【実況中継型報道】

台風18号が近づいている那覇市では、雨は小康状態だが徐々に風が強くなり、3日午後1時15分に22.2メートルの最大瞬間風速を観測した。

県や警察によると、ケガ人などの情報は入っていないが、午後3時半現在、那覇市など5つの市町村の沿岸部に避難勧告が出された。また、那覇市など県内26の市町村の約59万人に避難準備情報が出されている。

沖縄本島内の公立の幼稚園と小中高校は3日、全て休校し、県庁や市町村の役所も、午前中にほとんどが閉庁した。那覇空港を発着する航空便は200便以上が欠航し、沖縄本島と周辺の離島を結ぶフェリーも軒並み欠航している。

沖縄本島地方は3日夜にかけて暴風となる見通しで、厳重な警戒が必要。

【情報提供型報道】

台風18号は非常に強い勢力で沖縄に近づいており、まもなく、沖縄本島が暴風域に入る見込み。台風は4日夜から5日にかけて九州にも接近し、その後、速度を上げながら、本州付近を通過する見通し。

4日にかけて予想される最大瞬間風速は、沖縄で70メートル、奄美や九州で35メートル。波の高さは、沖縄で10メートル、奄美、九州で6～8メートルと猛烈なしけになる予想。また、4日昼までに予想される雨量は多いところで、沖縄で200ミリ、奄美と九州南部で150ミリ。

暴風や高波、低地の浸水などに厳重な警戒が必要。

【無責任型報道】

非常に強い台風18号が接近しています。屋外に、固定していないものが置いてあるならすべて屋内に入れる、排水溝を掃除しておく、食料、水、カセットコンロ用のガスボンベの在庫を確認する、など備えを確認してください。

台風18号の今後の進路



【現象先取避難行動誘発型報道】

非常に強い台風18号が、暴風域を伴いながら沖縄の南の海上を北上しています。沖縄地方では昼過ぎから暴風域に入り、大荒れのピークは夕方から4日未明にかけてとなるでしょう。

ピーク時には猛烈な風(最大風速45メートル、最大瞬間風速65メートル)が吹く恐れがあります。これは、樹木や電柱、街灯が倒れたり、走行中のトラックが横転するような風です。屋外での行動は危険となりますので、外出は避けた方が良いでしょう。海上は猛烈にしけますので、海岸付近には近づかないようにしてください。

また、昼過ぎから雨が非常に激しくなってくる見込みです。

夜になると、台風本体の活発は雨雲がかかるため、1時間に80ミリの猛烈な雨が降る恐れがあります。あす(4日)朝までに予想される24時間雨量は多い所で200ミリです。那覇の10月の一か月の平均降水量はおよそ150ミリですから、わずか一日で1か月以上の雨が降ってしまう恐れもあります。大雨に対する土砂災害や低い土地の浸水、川の増水などにも警戒して下さい。

IV 演 習

ここまでの内容を参考に、皆さんが今後、
自治体の防災の現場において専門的な見識をもとに、
意志決定や災害コミュニケーションに力を発揮していただくために、
リアルな演習プログラムを組んでみました。

1. 演習の目標

「市町村における気象予報士等活用のためのガイドライン（気象庁H29.3）」では、気象予報士等に必要な資質として、下記の4つを掲げています。

- 防災制度や防災気象情報に関する知識
- 気象に関する現場での実務経験
- 専門知識に基づく解説を、市町村職員や幹部に対する的確に実施できる能力
- 市町村の業務の進め方への理解や、市民の目線に合わせることでできる柔軟性

今回の演習では、水害の応急対策時における「災害コミュニケーション」の観点から、下記のロールプレイングを行います。

（演習1）市長への的確な状況報告と助言

→ 専門知識に基づく解説を、市町村職員や幹部に対する的確に実施できる能力

（演習2）避難勧告の市民（区長）への電話による伝達

→ 市民の目線に合わせることでできる柔軟性、

「現象先取り防災行動誘発型」情報の発信

（演習3）メディアに対する情報発信

→ 市町村の業務の進め方への理解や、「現象先取り防災行動誘発型」情報の発信

2. 演習の流れ

付与条件の理解



役割分担の決定



演習1～3の 原稿作成



演習1～3の ロールプレイング

演習の付与条件について、把握して下さい。

※付与条件は基本的なイメージです。今回の演習では
詳細条件を自由に想定してOKです。

各班で、リーダー1名と発表者1名を決めて下さい。

グループワークにより、演習1～3の原稿を作成
して下さい。

※実際の現場でも、短時間での作業が必要です。

原稿を用いて、発表者と講師で、ロールプレイングを
行います。なお、追加質問等も行います。

※ロールプレイング開始時に、各演習の班割り当てを
発表します。

3. 演習の条件1

あなたは、X市の防災課に所属する
気象防災アドバイザーです。

- X市は、中山間地に位置し人口5万人規模
- 2018年X月X日の土曜日午後……

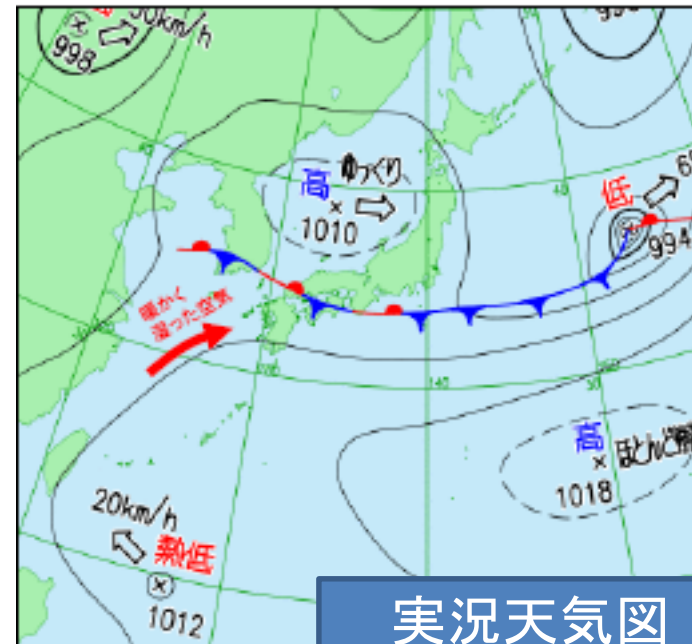


3. 演習の条件2

2018年X月X日の土曜日、停滞した梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の南側で線状降水帯が形成されつつあった。

あなたは、自宅で気象情報を収集しながら、待機していたところ、X市に

「大雨洪水警報（土砂災害・浸水害）」が発表され、急遽、市役所に登庁することとした。



実況天気図
イメージ

3. 演習の条件3

15:00 「大雨洪水警報（土砂災害・浸水害）」

発令、自宅を出発

15:15 X市で「**記録的短時間大雨情報**」

15:30 市役所到着 他職員2名と水防体制入り

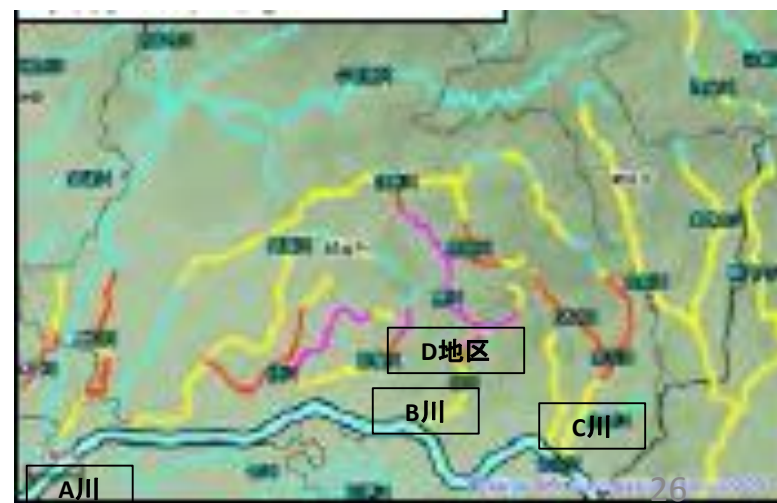
15:40 市役所近くの洪水予報河川A川では、未だ水防団待機水位に達していない。

A川の支川B川及びC川では、水位局が無い中小河川であるが、「洪水予報の危険度分布」で“赤（警戒）”。

15:50 「洪水警報の危険度分布」でA川の支川B川の上流域に

“**うす紫（非常に危険）**が出現”

「洪水警報の危険度分布」
15:50 イメージ

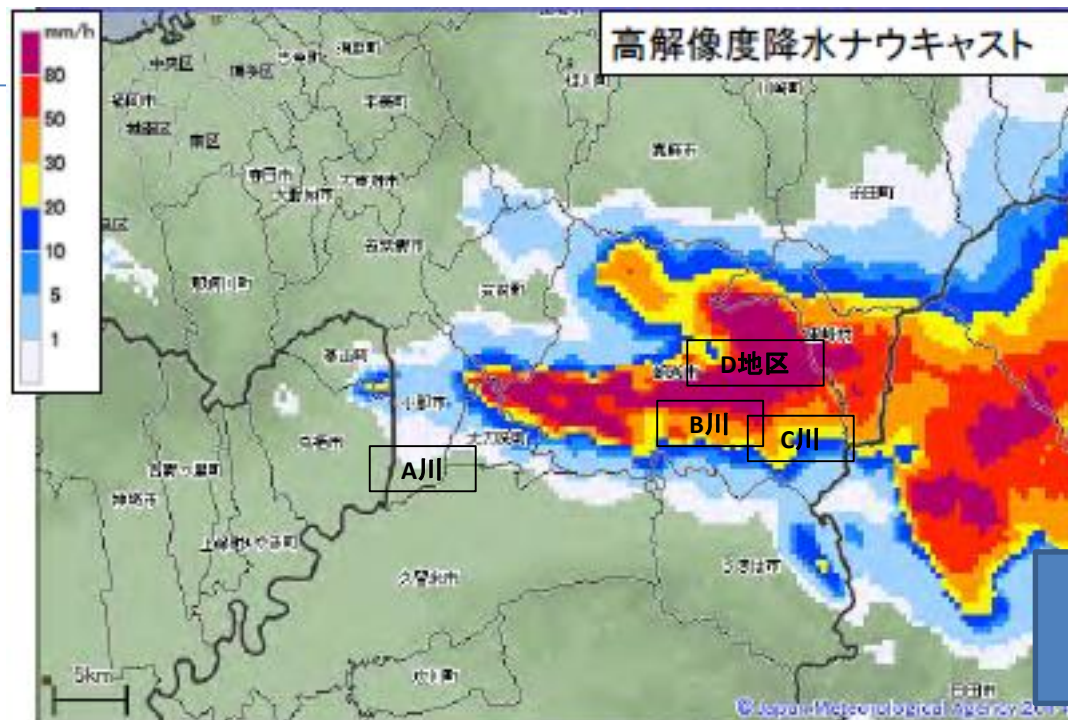


3. 演習の条件4

15:55 B川沿いのD地区の水防団（区長）に連絡すると「B川の水位が上昇しており8割位の水深。まだ橋は渡れる。」との情報。

15:57 「高解像度降水ナウキャスト」で1時間先までの予測を確認すると、B川沿川ではさらに降雨が強まる見込み。

15:55
B川出水状況 イメージ



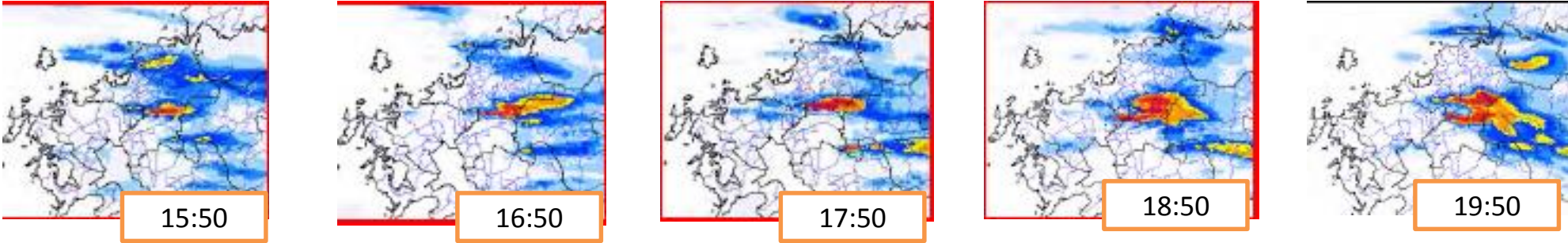
15:57 降水ナウキャスト
イメージ

3. 演習の条件5

15:58 「解析雨量・短時間降雨予測」で、6時間先までの予測を確認すると、強雨域は東に移動する予測。

15:59 気象庁防災情報提供システムの「流域雨量指数の予測値（帳票）」を確認すると現時点で“赤”のC川で大きく警報基準を超過する予測。

15:58 解析雨量・短時間降雨予測（イメージ）



15:59 流域雨量指数の予測値（イメージ）

平成30年X月XX日15時50分現在

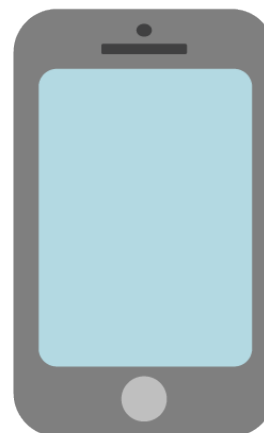
市区町村	基準河川	基準Ⅲ	基準Ⅱ （警報基準）		基準Ⅰ （注意報基準）		03 時	04 時	05 時	06 時	07 時	08 時	09 時	10 時	11 時	12 時	13 時	14 時	15 時	16 時	17 時	18 時	19 時	20 時	21 時	既往 最大事例
		单独 基準	单独 基準	複合 基準	单独 基準	複合 基準	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分	50 分		
X市	A 川			40.0		28.5	20.5	21.8	22.9	22.9	22.9	22.7	23.9	26.3	26.4	26.1	26.1	26.3	26.1	30.5	32.0	34.3	40.7	46.5	55.7	54.1 (1995.07.11)
	B 川	19.0	17.3		13.8		8.8	9.2	9.0	8.5	8.6	9.5	11.3	12.6	12.7	13.1	13.2	13.5	15.6	19.2	20.5	22.0	17.9	14.7	13.5	21.9 (1995.09.01)
	C 川	22.2	20.2		16.1		10.6	10.7	10.3	9.7	9.6	10.1	12.1	13.5	13.7	13.9	13.7	15.1	16.0	16.1	19.7	20.1	24.5	28.7	25.7	28.18.3 (1995.07.11)

【演習①】 市町村長への的確な状況報告と助言

日頃から「何かあったら直ぐに携帯に電話してくれ」と言われていた市長に、

あなたは、状況報告することとしました。

「どのように市長に電話しますか？」

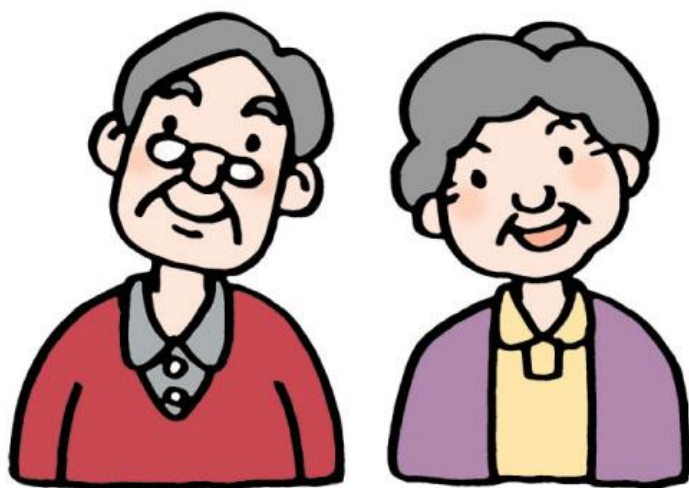


【演習②】 避難勧告の市民(区長)への電話による伝達

市長から「直ちに避難勧告対象区域の区長に連絡し、避難を呼びかけてくれ」との指示、

あなたは、

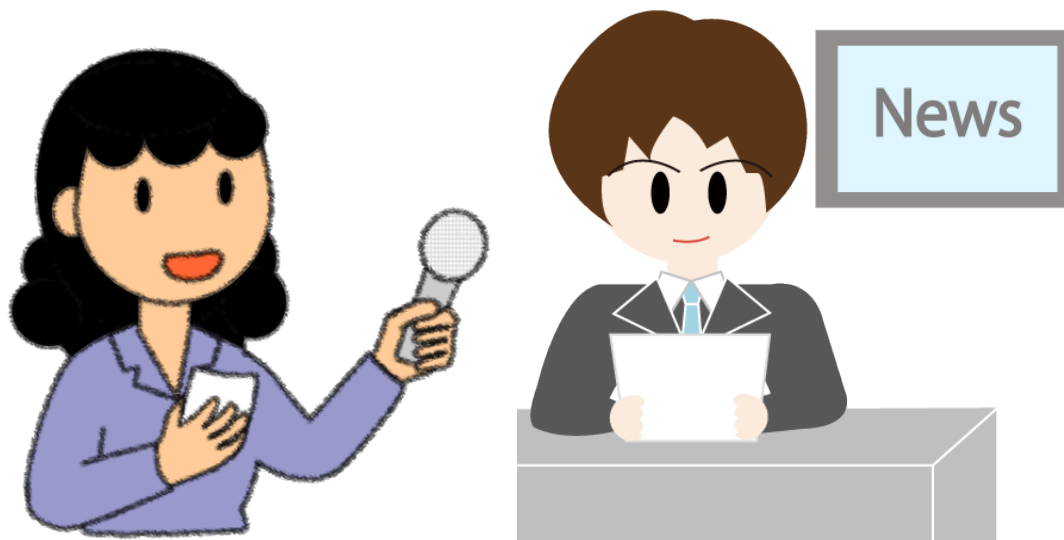
「どのように市民（区長）に電話しますか？」




【演習③】 メディアに対する情報発信

16:30から、地元TV局・FM局の記者を集めて、報道発表（記者レクチャー）をすることになりました。

報道資料をとりまとめ、報道発表をして下さい。



新潟県報道資料	
 平成30年2月8日 災害対策本部（防災局危機対策課）	
知事を本部長とする災害対策本部を設置し、会議を開催します。	
県では、降り続く雪により積雪量が増加し、本日9時53分に長岡市から県災害救助条例適用の協働があったため、同時に知事を本部長とする災害対策本部を設置しました。 つきましては、会議を以下のとおり開催します。	
1. 日 時	平成30年2月8日（水） 11時20分～
2. 場 所	県庁西四郎2階危機管理センター災害対策本部会議室
3. その他	会議は公開で行います。
■本件についてのお問い合わせ先 防災局 危機対策課 大崎 ☎ 025-282-1632（内線 6432）	

V 本日の振り返り

ここまで皆さんが気づいたことを、みんなで共有しましょう。

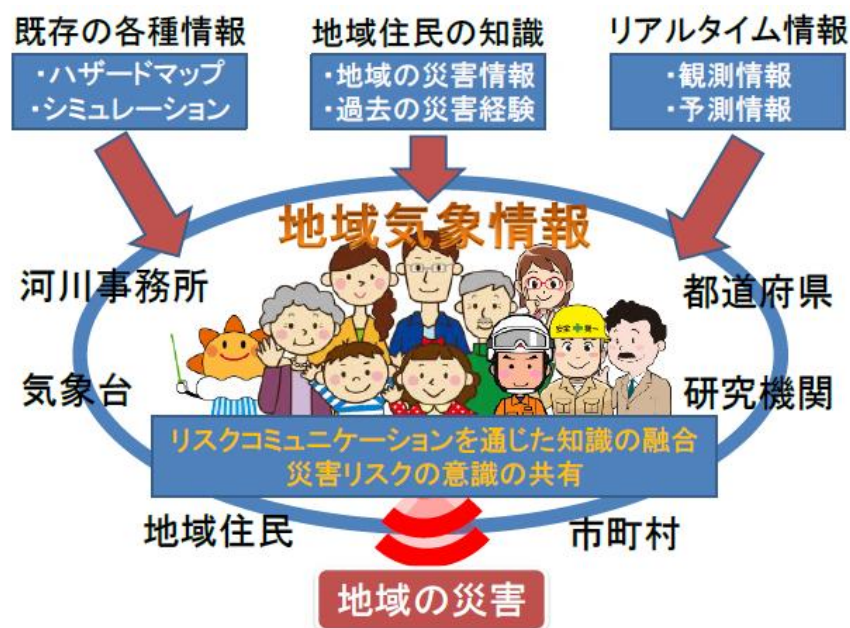
また、これからの気象情報のあり方を考えるうえで、
とても重要になってくると思われる研究・実践事例を簡単に紹介します。

1. 気づきの共有

別途、ご記入いただきます。

2. 今後の気象情報のあり方を考えるための情報提供

①地域協働型の地域気象情報



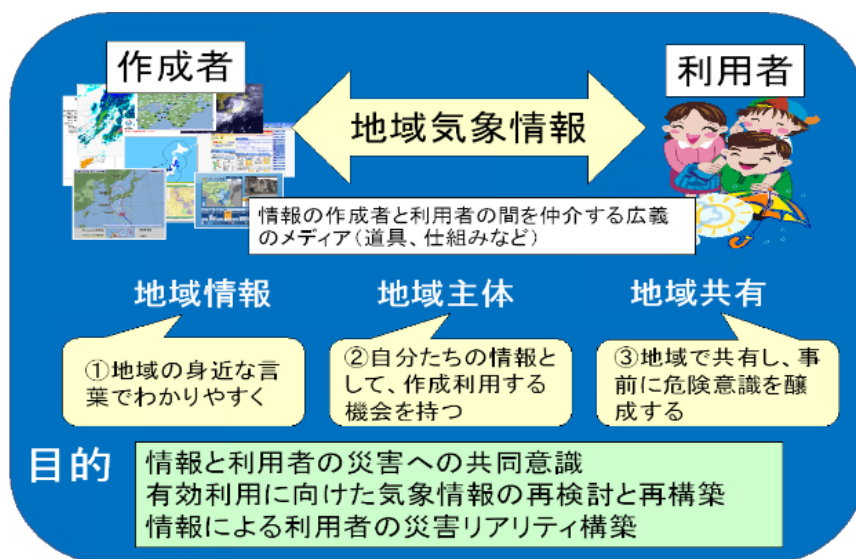
1. 地域気象情報とは

京都大学防災研究所の矢守先生など研究者の皆さんが提唱し、各地で実践されている新たな取組として注目しています。

気象情報を自らのものとして再構築し、より高度な防災を図る取組といえるでしょう。

- ① 専門的な気象情報を身近な表現にする
- ② 地域の状況の理解と災害への危機意識を高める
- ③ これらの取組に専門家や関係機関とともに地域住民が主体的に参加することで、地域の災害文化が醸成される。

2. 地域気象情報の例（伊勢市中島学区の洪水情報の事例）



観測情報 水位

宮川の岩出観測所の水位が6.50mに到達。

従来型情報

指定河川洪水予報

宮川の岩出観測所の水位が避難判断水位に到達

地域気象情報

度会橋オレンジ水位超える情報

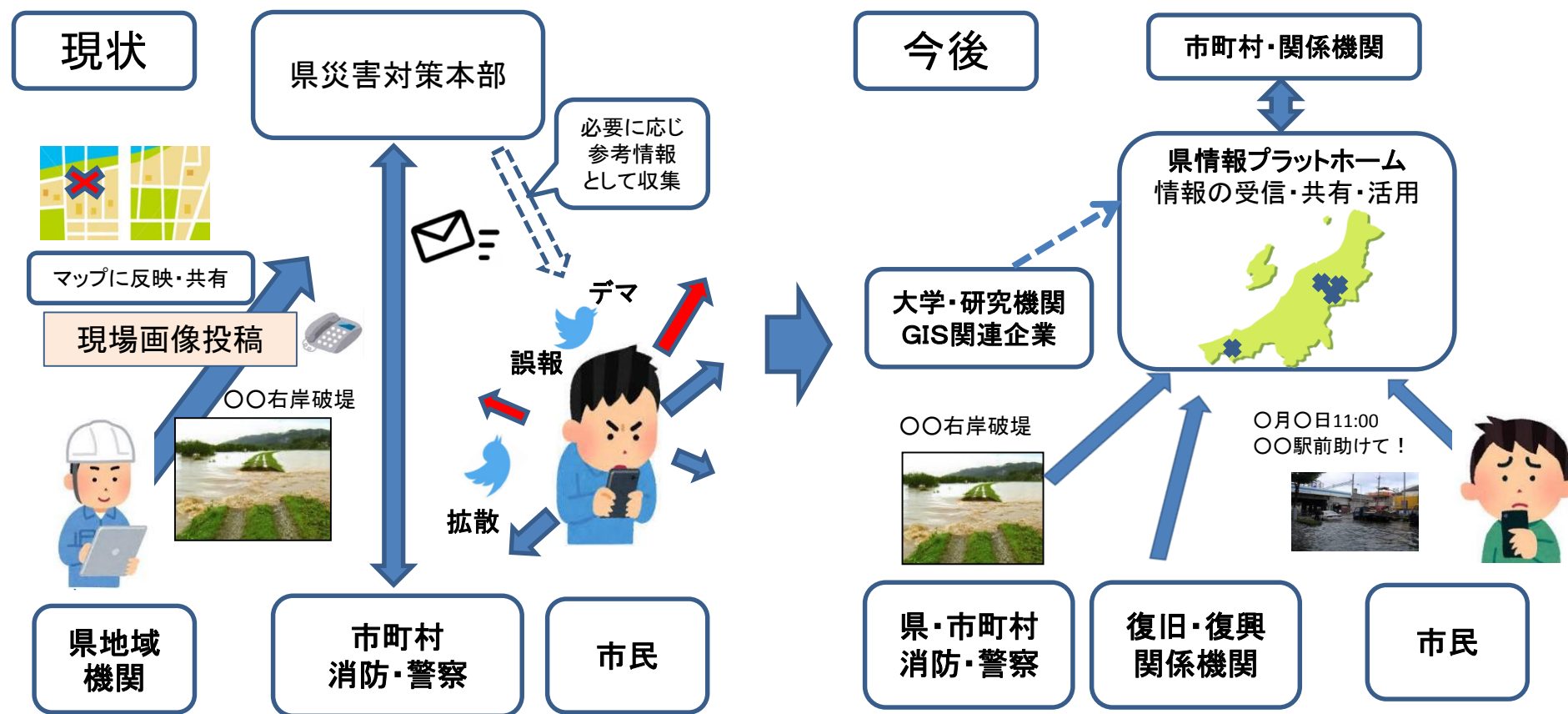
度会橋の水位が、オレンジの線を超えました。宮川沿いではガマの発生が危惧されます。避難が必要な皆さんは、避難の心積もりをしてください。

2. 今後の気象情報のあり方を考えるための情報提供

②ソーシャル・センサーの活用

自治体や関係機関の情報に加え、最近では市民の情報（ソーシャル・センサー）の活用が注目されています。

関係機関の情報のほかに、個人の情報も共有し、活用していくための「情報プラットフォーム」をいかに迅速に立ち上げられるかが、救助や復興のスピードと質を決めていくようになっていわれています。

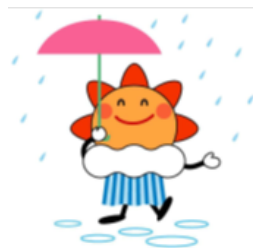


【現状】
職員からの現地情報
報道機関からの情報
監視カメラ・検知器

【課題】
対応できる人員不足
小さな地域の情報不足
情報の整理・管理が困難

【市民情報活用事例】
佐久市長のツイッター情報呼び掛け(大雪)
萩市の高校生のLINEでの避難呼び掛け(洪水)
ウエザーニュース社の市民参加型気象情報

【運用ルール検討が急務】
利用可能な災害の種別
活用する判断基準
個人情報の扱い など課題山積



どうもありがとうございました。

皆さんのこれからのご活躍を祈念いたします。

本日皆さんにお話したことは、学説でも結論でも正解でもなく、日頃ぼんやり考えている私見に過ぎません。

皆さんがそれぞれの現場で、しっかりと考えていただく際の一助となれば幸いです。

なお、本資料中のデータ等は、確認しきれていないものもありますので、引用されるような場合はご注意ください。